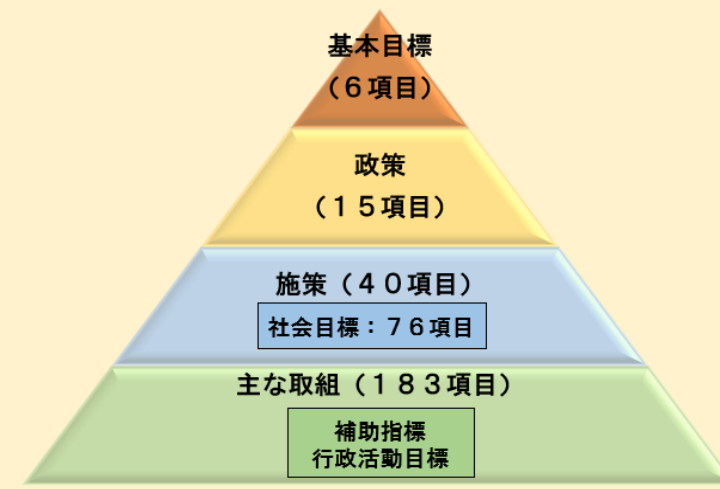


政策評価の概要

- 政策評価とは、総合計画に掲げた基本目標の実現に向けて、各施策の実施状況の把握や分析を通して課題を把握し、必要な改善を次の施策展開に反映させていく取組のことです。
- 総合計画の推進に当たっては、県民の皆様と共有・協力して実現を目指すべき具体的な数値目標として76の社会目標を掲げています。
- 令和4年に策定した総合計画の評価においては、評価帳票の様式を改善し、社会目標と個々の取組のつながりがより明確になるようにしました。
- 評価結果については、客観性や統一性などの確保に努め、外部有識者の意見を踏まえ、とりまとめていきます。

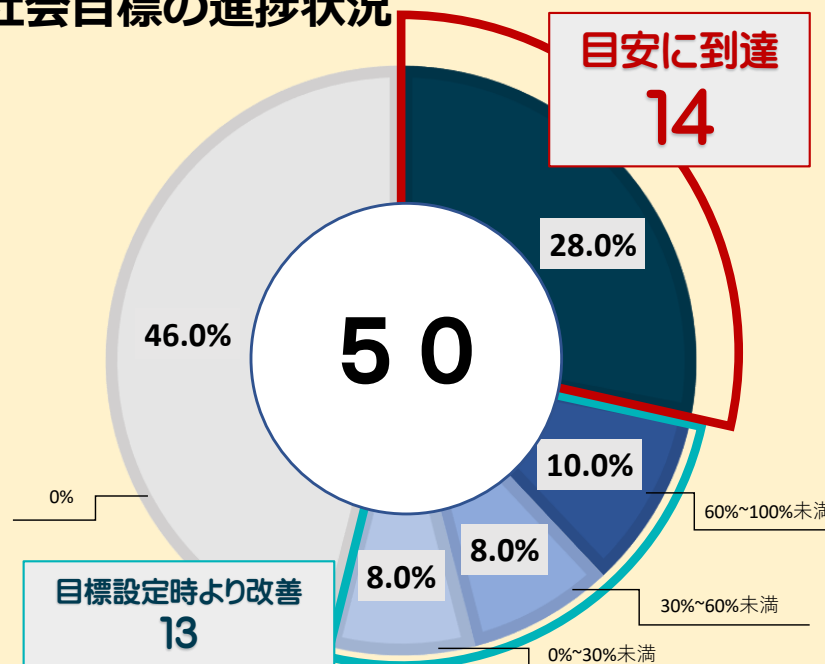
総合計画の体系図



政策評価結果のポイント

- 令和4年度事業では、現時点で実績値が判明している50の社会目標のうち14指標（28.0%）が、令和4年度時点での目安となる水準に到達しました。
- 一方、36指標は目安となる水準には到達しませんが、このうち13指標は目標設定時よりも改善しました。
- 引き続き、成果や進捗状況を把握・分析し、必要な改善を次の施策展開に反映していきます。

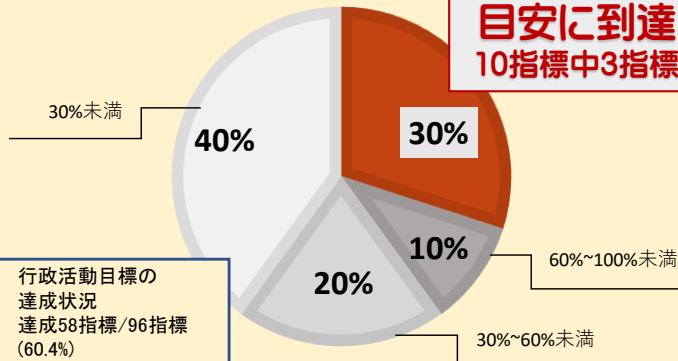
社会目標の進捗状況



社会目標の進捗状況

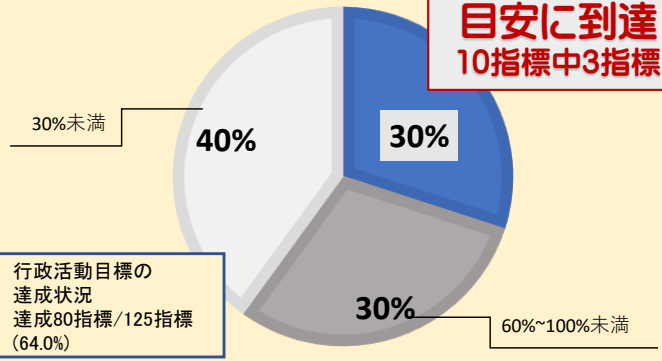
I 危機管理

目安に到達
10指標中3指標



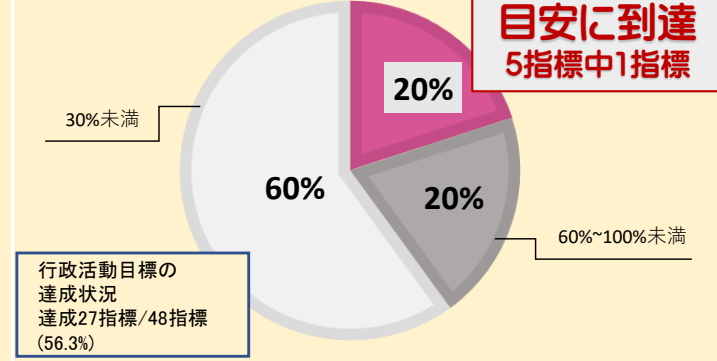
II 産業・社会資本

目安に到達
10指標中3指標



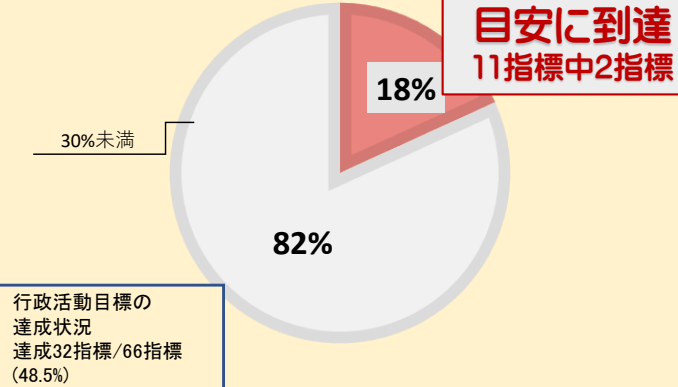
III 医療・福祉

目安に到達
5指標中1指標



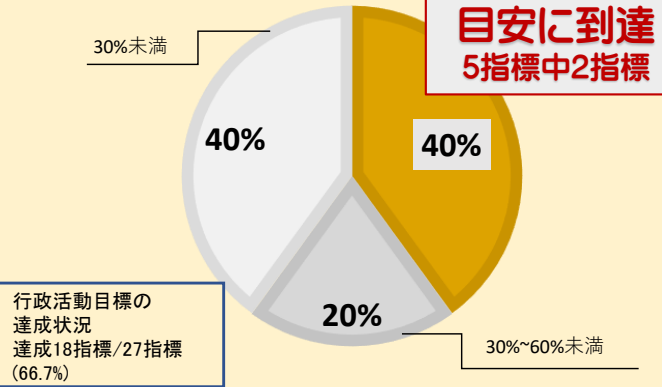
IV 子ども

目安に到達
11指標中2指標



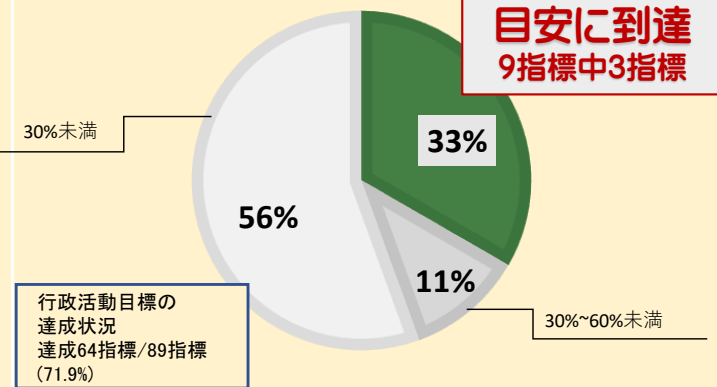
V 共生

目安に到達
5指標中2指標



VI 自然・文化

目安に到達
9指標中3指標



【6つの基本目標】

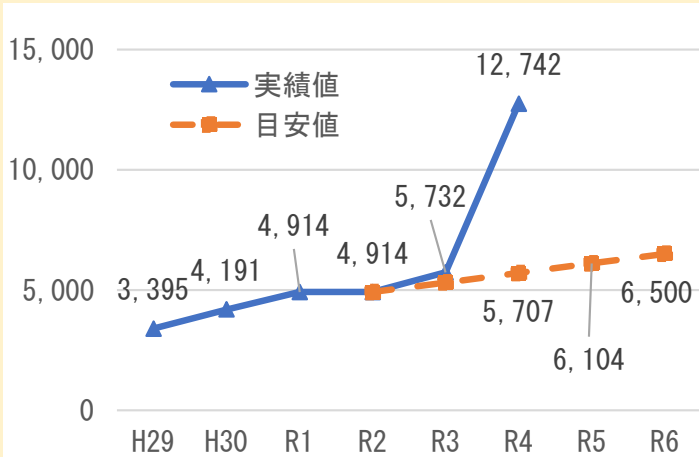
- I 危機管理体制の構築と安全の確保
- II 千葉経済圏の確立と社会資本の整備
- III 未来を支える医療・福祉の充実
- IV 子どもの可能性を広げる千葉の確立
- V 誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現
- VI 独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

- ◆上記6つの基本目標のうち、最も進捗している分野は「V 共生：誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現」で、低い分野は「IV 子ども：子どもの可能性を広げる千葉の確立」でした。
- ◆令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響がまだ継続しており、III「地域の医療体制に安心を感じている県民の割合」やVI「直売所1箇所当たりの年間購入者数」等の進捗率が低くなる一方で、県内の雇用情勢が徐々に回復していることによりII「完全失業率」には改善が見られました。また、高齢化の進行、担い手不足等によりI「自主防災組織の活動カバー率」やI「自主防犯団体の数」等の進捗率が低くなっています。
- ◆なお、目標を達成できなかった施策については、今後、内容の見直しや改善を図るとともに、新たな事業の検討に生かしてまいります。

社会目標の具体例

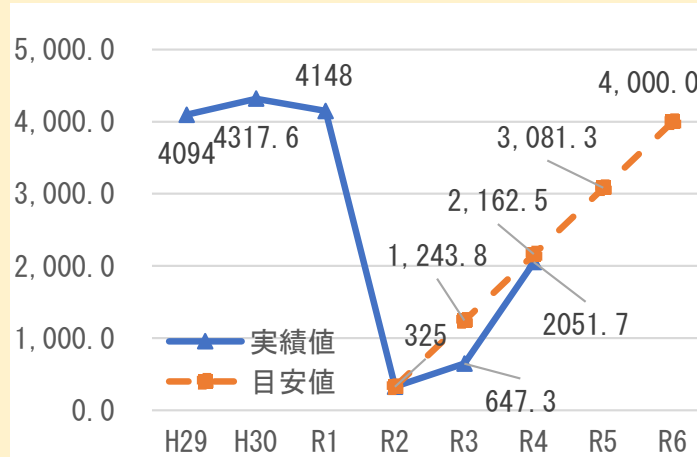
I 健康危機対策研修修了者数
(施策コード：I-1-①)

(単位：人)



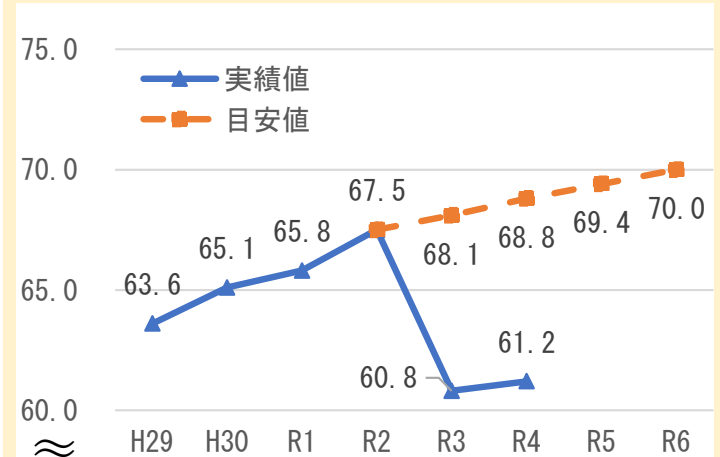
II 成田空港の航空旅客数
(施策コード：II-1-④)

(単位：万人)



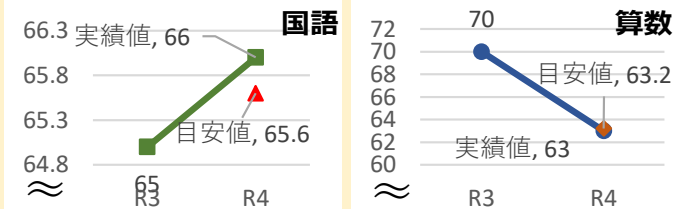
**III 地域の医療体制に安心を感じている
県民の割合** (施策コード：III-1-①)

(単位：%)

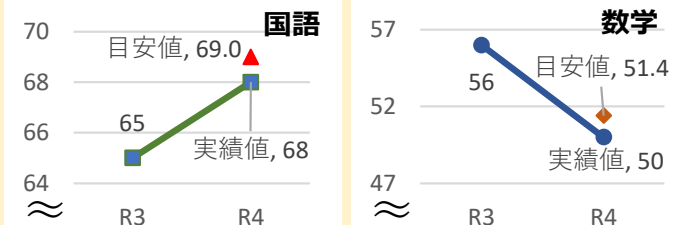


IV 全国学力・学習状況調査の平均正答率
(施策コード：IV-2-①)

○小学校 (単位：%)

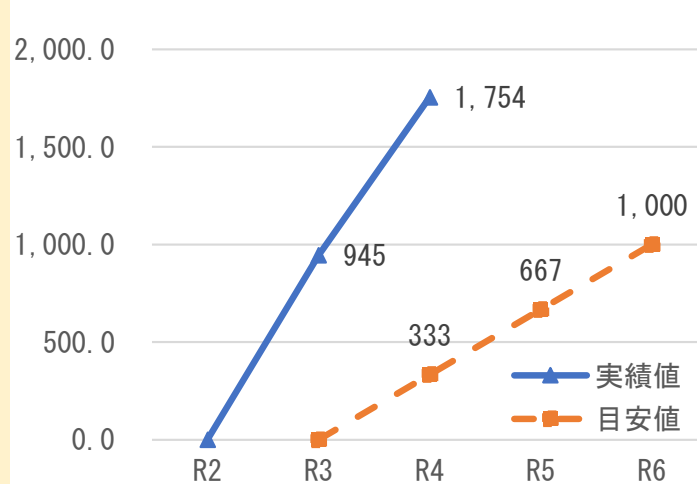


○中学校



**V 「ちばSDGsパートナー登録制
度」の登録数** (施策コード：V-2-①)

(単位：件)



VI 人口の社会増
(施策コード：VI-1-①)

(単位：人)

